

経験します。そして、自分が変わらなければならないと強く感じたのです。そうしているうちに、NPO法人 Birthという団体で「動物たちが開く心のとびら」という本と出会いました。細田さんは、その本に出てくる自閉症の少年に自分の過去を重ね合わせました。そして、その本に出てくるセルフエスティーム（自分を愛し尊ぶ心）の話に感銘し、自分の存在を認めて欲しいという想いが強ければ、相手を認められないことになる。相手を受け入れる前に自分を抱きしめることが大切だと考えるようになりました。

人は無条件に人を受け入れない。自然は無条件にダイレクトな反応があるため、うけいれてくれていると感じられる。無条件に受け入れてくれる人や自然を媒介にすることで心を開いていきかけになる。あたためる人がいてセルフエスティームを伸ばしてくれる人がいればいいんだ。と発信していただきました。

ナチュラリスト系？(古瀬さん)

古瀬さんは、自然教育、環境教育をキーワードに活動されてきました。

ひとことで今風に言うと ナチュラリスト系 だそうです。

今は、キャンプをしたり、自然公園で仕事をしています。

「自然体験と心の教育はそのところにつながっている。」とおっしゃっていました。

そして、「自然体験に取り組んでいる人の中には、こころの教育に貢献できることが眠っている。」ということでした。

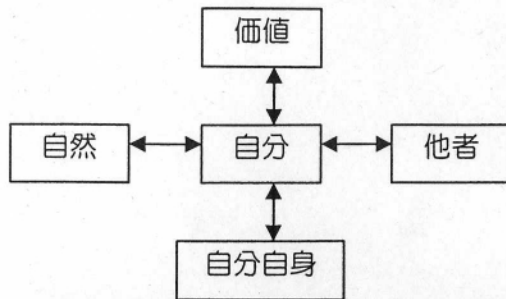
実際に、自分が経験した子どもの変容や自分のしてきたことを話してくだり、最後に

「みなさんがやっているフィールドや領域の中にも、子どもたちの成長やコミュニケーション、大人の癒しにつながる可能性を広げられる何かがあるんじゃないか。みなさんも考えてみてください。」と提言していただきました。

人間関係トレーニング(西田)

最後に、西田先生が、環境教育の中に人間関係トレーニングを持ち込んだ話をして分科会のまとめをしていただきました。

人間関係は自分と他者との関係である。



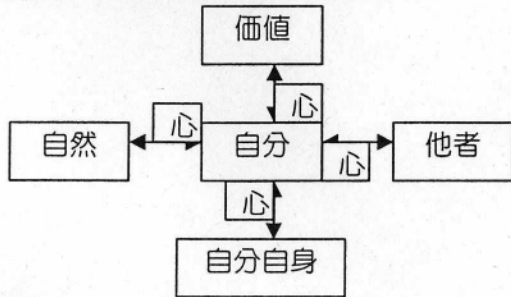
自分との関係と他者との関係は密接であり、自分をコントロールできない人は、他者との関係を構築できない。

価値に出会って変化が生まれる。

人間関係とは、人との関係だけでなく、人以外との関係であり、そこでの関わりが、その人を大きく変化させるとおっしゃっていました。

そして「心はどこにあるのか。」

それは、物質的には説明できず、身体の中にあるのではなく、「人間が関心を持ったときに、そこにあるのが心。関わりの中に生じるもの。」だとおっしゃっていました。

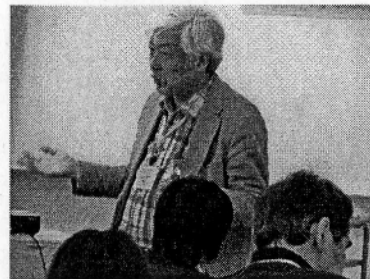


最後に

「自然体験は、孤独な体験ではなく、人や自然との関わりの中でおこなわれるものであり、関わりなのだ、一番大切なのは関わり方なのだ」と締めくくっていただきました。

事例発表と事例発表の間には、個人とグループのふりかえりが行われ、充実した時間をすごすことができました。

(レポート 法人ボランティア 竹内正則)



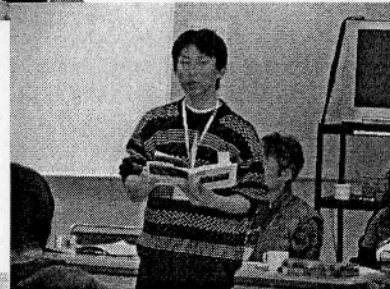
西田 真哉 氏



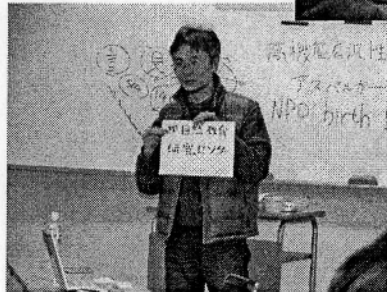
進藤 丈直 氏



高橋 由希子 氏



細田 昌史 氏



古瀬 浩史 氏